

「銭形金太郎」のキングオブ貧乏 絶対オマケ生

辣腕イベントマンから
ホームレスに

取材・文 藤塚卓実 編集部

REPORT
04

情報けものみち

ホラ話より10倍面白くて 100倍ドラマチック



日本のホームレス人口、2万5千人。これは、我が国の経済状況を如実に示すものであると同時に、格差社会時代の暗い一面を象徴する数字でもある。

職も家も金もなく、社会の枠組みからこぼれ落ちた人たち。ゆえに、街中で彼らを見かけるとき、我々はさまざまな感情を抱く。哀れみや同情の念、あるいは蔑み。もしかしら、道端の石ころでも見るように、何の感慨も起きぬ人だっているかもしれない。

どん底で生きるといえるのはつまりそういうことなのだ。存在があまりにも軽いのである。

ただ、当のホームレスは、外野が考えるほど自分の置かれた状況を嘆き悲しんではいない、と俺は思っている。いや単にネガティブな感情を表に出さないだけなのかもしれないが、少なくとも俺がこれまで仕事で接してきた限り、彼らはいつも元気でバイタリテイに溢れ、そして底抜けに陽気だ。「今でこそこんな情けない生活してけど、俺も昔は社長様だったんだぜ。歌舞伎町のちよっとした顔でよお、ホラシエなんか乗り回しちゃつてよお」

一緒にワンカップでも飲めば、過去

の武勇伝をうれしそうに語り出す連中の多いこと。もちろん、大半はつじつまの合わないストーリーだけど、こちらも「ウソでしょ？」なんて野暮は言わない。だって、そうだろう。悲惨な身の上話を聞くよりも、夢のあるホラ話で盛り上がった方がよっぽど楽しく、有意義ではないか。

しかし、中にはいるのだ。適当なホラ話よりも10倍面白く、100倍ドラマチックな、それでいてウソ偽りない半生を歩んできたホームレスが。

ギー藤田(57才、本名、藤田義晴)。そのケツタイな名前前にピンときた読者もいるだろう。

貧乏自慢の素人出演者が数多く登場する『銭形金太郎』(テレビ朝日系、昨年12月終了)で最も異彩を放ち、一躍、名物キャラの1人となったあのオッチャンだ。

かつてイベント会社の社長として、人生の成功を味わった彼が、会社と豪邸と家族を失い、あまつさえ『銭金』視聴者の笑い者になった理由。それは聞くもマヌケで豪快、そして悲惨なものだった。

昔の友人が 面倒を見てくれる



今年3月上旬、浅草。午後10時。よ

うやく夜風の冷たさが和らいできた下町のバーで、俺はギー藤田と対面した。

ウェービーな長髪に黄色縁のサングラスという、ロックスターばりの出で立ちは、数年前テレビで見かけたときとまったく同じ。変わったのは、多少、白髪が増えたところくらいか。

現在、ギー藤田は西新宿を拠点に都内各地を転々と渡り歩く生活を送っている。ホームレスなので当然ながら住居はなく、段ボールハウスだとかブルーシートのテントといった『自宅』も所有していない。寝起きは、もっぱら24時間営業のファストフード店や公園、昼間ならJR山手線の車内で、といった具合だ。

では普段、何をしているのかと尋ねると、ギー藤田は恥ずかしそうに笑って言った。「まだ『銭金』が放送されてたころは、よく街中で声をかけられたり、食べ物を買ってもらったりなんてこともありましたが、最近は少なくなりましたね。だから今は、日中ひたすら日記を書いたり、本を読んだりしてます。なんたてホームレスですから。時間は有り余るほどあります」とはいえ、彼はいわゆる普通のホームレスとはちよっと毛色が違う。携帯電話も持っていたれば、週の大半は居酒屋

屋やレストランなどで食事もする。いつも誰かしら、彼の面倒をみてくれるためだ。

「中には最近の知り合いもいるけど、そういった連中のほとんどは昔からの友人です。彼らがどこかへ飲みに行くとき誘ってくれるんですよ。お前も来い。腹減つてんだらうって。この携帯も『これがないとお前を捕まえられないから』つてわざわざ持たせてくれたものでして」

『銭金』に出演し始めた時期、彼は西新宿にある、廃屋同然のアパートに住んでいた。だからこそ、番組から出演依頼が来たとも言えるのだが(同番組はあくまでスーパーパー貧乏人を紹介するもので、ホームレスは一切登場しない)、そのアパートも、知人のAV会社社長が、やはり好意で彼に貸し与えていたものなのだ。

普通、ホームレスにでもなれば、それ以前の交友関係は自然消滅してしまうもの。なのに未だ優しい仲間にも恵まれているのは、落ちぶれても卑屈なところを感じさせない、藤田自身の性格も大きく関係しているんだろう。

早稲田大学の校内で ピンク映画の上映会



藤田の口からは、なぜか度々、映像・



「金銭に出演していたころ住んでいた西新宿の廃屋。リポーターの伊集院光は「これってホラー」と評した。現在は取り壊されて消滅」と評した。現在は取り壊されて消滅

テレビ関係者の名が出てくる。聞けば実際、業界人の知り合いは多いよ

うで、映画プロデューサーで、俳優・小栗旬の所属事務所の社長でもある山本又一郎氏も古くから付き合いがあるらしい。いったい、ギー藤田、いや藤田義晴とはどのような経歴の持ち主なのか。

昭和25年7月19日、新潟生まれ。地元の前進学校を卒業後、一浪して早稲田の文学部に入った彼は、学生運動真っ只中の時代に東京生活をスタートさせる。

住まいは杉並区にある日経新聞の配達員寮。実家に学費の負担をかけぬようにと、新聞奨学制度を利用していたのだ。そしてこのころ、藤田は今だに忘れられぬ体験をする。オナ

ニーだ。

「僕は本当にウブな少年で、19才になってもまだ自慰行為というものを知らなかったんです」

ある日、専売所で折込み広告を入れていると、同い年の同僚がニヤニヤと近づいてきた。

「小島くんついでいんですけど、オマセなヤツですね。藤田、お前まだ精子を出したことがないんだって？ じゃ俺が手ほどきしてやるよ」なんて言うんです。軍手をつけた小島くんにしごかれましてね。射精したときは、本当に天まで飛んじゃいました。嗚呼、この世にこんな気持ちのいいものがあるなんてって」

この感動を分け与えたくなった藤田は、以来、近所の中学生を集めては、

オナニーの素晴らしさを説いた。今なら、間違ひなく変質者扱いされていただろう。

牧歌的な青春を送る一方、藤田は、後に発揮する商才の片鱗を見せ始める。学内での有料ピンク映画上映会、

キャンパスローン、さらには車のパンク修理剤を買わせるマルチ商法等々。面白いように金が転がり込んだ。

「でも、これはあまり良い思い出じゃないんです。友人をたくさん失いましたから。マルチに誘った人たちが、自分と同じように儲けているとはびっくり思ってたんですけど、実はそうじゃなかった。世間知らずだったんですね」

しかし、このときカッポリ稼いだおかげで、奨学金は2年で完済。同時期に早稲田の同級生とも学生結婚をしている。傍目からみればごく順調な人生だと言っていだろう。時は昭和46年。ギー藤田、21才の春だ。

月収はピーク時500万円 自宅は9000万の豪邸



それから4年。大学を6年かけて卒業した藤田は、学生時代のためこんだ金を元手に、仲間5人と「ポッシン・カンパニー」なる会社を立ち上げる。

ビートルズ、ジミヘン、ピンクフロイ

ド、ローリングストーンズ等々。海外から仕入れたロックバンドの家庭用フィルムを地方の興業主にレンタルしたり、自社で直接フィルムコンサートを開催するイベントオフィスだ。

「当時は日本にロック文化がいよいよ花開くという時代でしたから。当たる確信はありませんね」

外タレのライブコンサートが当たり前である現代とは違い、海外のロックスターを生で見られる機会は滅多になかったこの時代、藤田の会社は大成功を収める。

「凄かったですよ。たとえばビートルズのフィルムコンサートを打つと、たった1日で2千人以上が集まるんですから」月収は200万。多いときで500万。大卒の初任給が10万前後の時代に、である。これを濡れ手に粟と呼はすして何と言おう。

事業は長らく好調を維持し、その間長女と次女に恵まれたのを機に（最終的に4人の娘を授かる、都内某所に9千万の豪邸を建築。いつのまにか金遣いも、趣味の麻雀で1日50万を溶かすまでに荒くなった。

「賢沢といっても、あとは車を買ったりとかそんなもんですよ。商売のアイデアを考えるのは大好きですけど、お金そのものに執着するタイプじゃ

「銭形金太郎」のキングオブ貧乏 ギー藤田の壮絶オマヌケ半生

REPORT

04

情報けちのみち

ありませんので

約10年後、34才のとき、藤田は経営に陰りがみえだした『ボッシュ・カンパニー』をあつさり解散。企画をプロゼンし、クライアントから歌手のプリモやモーターショーなどの映像製作を請け負う事業を新たに立ち上げる。社名は『グレート兄弟社』。大好きなメンソレータムを製造販売していた『近江兄弟社』（現在はロート製薬が買収）から拝借したものだっただ。

新会社は、無難なスタートを切った。さすがに『ボッシュ・カンパニー』のピーク時には及ばないものの、そのうち大手広告代理店、電通が元請けとなる大きな仕事も時々舞い込むようになり、ますますの業績を保っていく。

笹川会長の乗った円盤が 平和島競艇場に飛来



藤田の経歴がおおよそわかったところで、そろそろ本題に入ろう。

彼をホームレスへと変える一大事件、それが訪れるのは、昭和60年秋、35才のときだ。

ある日、藤田は日ごろ付き合いのあるイベント会社の社長、I氏から相談を受けた。

——来年の鳳凰賞のイベント用に何か良い企画ないかな？——

このセリフを理解するには少し説明が必要だろう。

公営ギャンブルの一つ、競艇には年6回行われるSGレースというものがある。競馬のG1に相当する最高位レースで、鳳凰賞競争（現在は総理大臣杯競争に改名）は、SGの中でもシーズン一発目の重要なレースだ。

ために、開催日には毎年億単位の予算をかけたイベントを打ち上げるのが恒例となっており、その仕切りは電通が担当。本社、小会社の社員は言うに及ばず、下請け会社にも企画書を上げるよう指示が出る。I氏の経営する会社も、そのうちのひとつだった。

相談を受けた藤田は、奇抜なアイデアを提案する。ポート場に巨大な有人UFOを飛ばすってのはどうだろう。

「知り合いにNさんっていう工作機械の設計製造をやっている人間がいます。本業以外に、いつも夢のような計画を考えて実行している面白い男なんです。が、たまたま彼からアダムスキー型のUFOを作れるって話を聞いていたんです。もう設計図も出来てるって」

藤田のプランに、I氏はすぐに飛びつく。前回の鳳凰賞では、ロス五輪の開幕式で有名になった「人間ロケット」が登場し、ポートファンの度肝を抜いていた。空飛ぶ巨大UFOは、それを

も上回るインパクトには達しない。

Nさん考案のUFOは、フレームにジュラルミンより軽い金属を使い、ヘリウムガスで浮力を、プロペラで揚力を得る仕組みとなっていた。設計図を見せた航空宇宙工学の権威、東大の東教授によれば、理論上は飛行可能だという。

——日本船舶振興会（イベントのスポンサー）、笹川会長の乗ったUFOが競艇場に飛来、上空からレース開催を宣言します——。

数カ月後、この藤田&I氏のプレ

ゼンは、見事、スポンサーの心を射止める。何百という企画がボツになっていく中で、の快挙だった。

何度テストしても
飛はない……



プロジェクトは着々と進行した。パブリシティは電通がテレビ局のスポンサーを抑え、15秒と30秒パッケージのCM製作に着手。翌昭和61年の2月には、UFOの各部品も完成し、あとは組み立てとテスト飛行を残すば

なぜか、小銭だけは
いつも必ず持っている



かりとなった。

円盤の存在は、レース直前まで極秘扱い。兵庫県山中で人目を忍んで作業していたが、噂を聞きつけたスポーツ紙が『謎の未確認飛行物体が平和島（競艇場）に襲来!』とスッパ抜き、一層ファンの期待を高める。仕事関係で付き合いがあった前述の映画プロデューサー・山本又一郎氏などは、わざわざ東京から車で現場まで駆けつけ、目を丸くしたそぶりだ。

藤田、す「い」ことやるなあ。スビルパークの『未知との遭遇』なんて目じゃないよ。」

ところが、である。

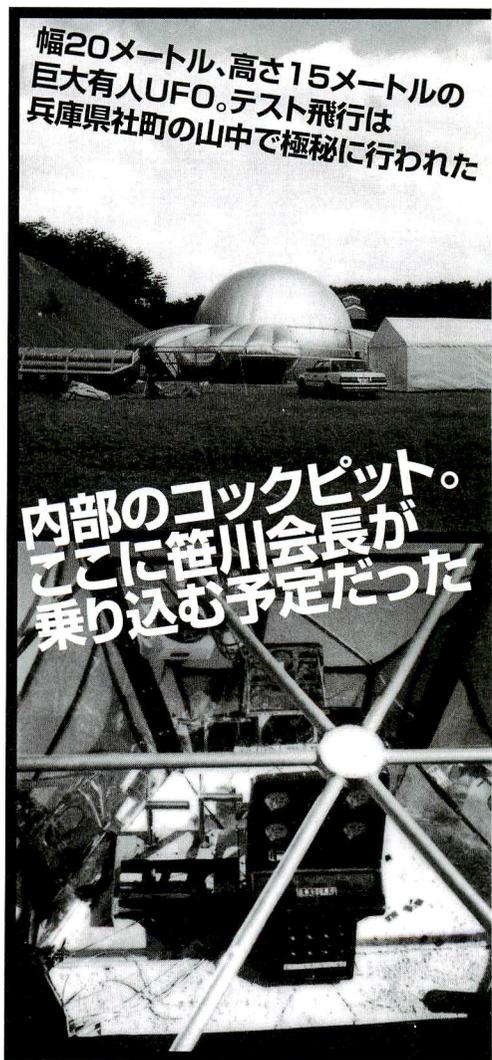
「何度テスト飛行を繰り返しても飛ばないんです。いや正確には1.5メートルくらいは浮くんですが、それ以上は無理でした」

ただちに関係者が集まり、話し合いが行われた。今さらイベントは中止できない。かといって、レースは目前で一から作り直すにも時間が足りない。喧々諤々の議論は朝から晩まで続き、3日後、ようやく意見がまとまった。

「飛ばないのもう仕方ない。スポンサー側に承諾をもらって、当日は台船に乗せたUFOを、観客に披露することになったんです」

スポンサーと電通の怒りは相当だった。当然だろう。製作済みのCMは

幅20メートル、高さ15メートルの
巨大有人UFO。テスト飛行は
兵庫県社町の山中で極秘に行われた



一度も放送しないまま。スポーツ紙には円盤がテスト失敗に終わったという記事まで掲載されてしまったのだ。金額的な損失は甚大、メンツも丸つぶれである。これ以上の失態は許されない。もう、絶対に。

昭和61年3月20日、『第21回鳳凰賞競争』当日。午前9時45分の開会式に間に合わせるため、UFOを積んだ台船が平和島競艇場脇の運河をゆつくりと出る。目指すはコース中央の定位置だ。

船が第一ターマーク付近に差しかけたところで、突風が吹いた。カタツと音を立て、勢よく舞い上がる円盤。呆然と空を見上げる藤田。実験で一度も飛ぶことのなかったUFO

内部のコックピット。
ここに笹川会長が
乗り込む予定だった

〇は、バラバラと分解しながら飛行を続け、やがて遠い彼方に消えていく。「うん、すんも口にするヒマがない、一瞬の出来事だった。」

スポーンニッポンが、当日の模様をこう伝えている。

《とんだトラブルに見舞われた関係者たちは、まさに踏んだり蹴ったり、ファンを裏切って申し訳ない」とガツクリ。ちなみにUFOの制作費は五千万円》

クラブオーナーと再婚
ヒモ同然の生活に



その後、藤田がどんな立場に追いやられ、いくらの損失を負ったのかに

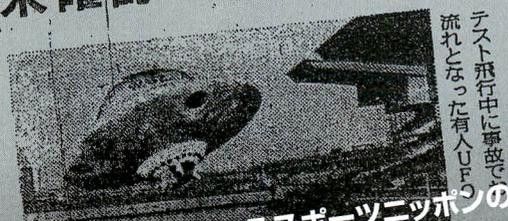
ついては、本人の強い要望により具体的に書けない。

言えるのは4つの事実だ。スポンサーからは、ギャラのごくごく一部しか支払われなかったこと。そのギャラを1氏の会社と折半したこと。それでも、今までなかった経費をすべて立て替えていた藤田の元には莫大な借金が残り、グレート兄弟社が倒産したこと。そして以降、坂を転げ落ちるように人生が暗転していったこと。

事件の直後、藤田は妻に籍を抜かせている。自宅や財産の差し押さえを守るのが目的で、別居するつもりは毛頭なかった。

「それから10年ほどは借金返済のため、に必死で宮仕えをしてたんですが、

中止飛行のままの確認未



テスト飛行中に事故で、流れとなった有人UFO
平和島鳳凰賞の目撃記事
テスト飛行失敗を報じるスポーツニッポンの記者が、「未確認のまま飛行中止」ってか。上手いこと言いますな

人間って不思議なものでね。あるとき突然、そんな生活が耐えられなくなつて、家に帰らなくなつたんです。どうせ法律上は離婚してたんだし、もういやや、別れてしまえって」

「僕、学生のころから映画監督になるのが夢で、いまだにその願いは持ち続けているんですけど、二度目の妻が経済力がある上に優しい人ですね。あんた働くのが嫌なんでしょ。本読んだり、映画のシナリオでも書いてないさい、なんて言ってくるんです。だから、彼女のことばにズッパリ甘えることにしました」

藤田が本格的なホームレスになるのは、クラブを閉めた奥さんが、長野に生活の拠点を移すことに決まってきた。すでに、50才になって

いた藤田はどうしても東京を離れることができなかった。結果、籍を入れたまま、別居。住む家を失い、友人知人の部屋を泊まり歩くことになる。それから紹介までの生活ぶりは、冒頭で紹介したとおりだ。

藤田は言う。

「自分の家がなくても、たくさん友人が親切にしてくれるおかげで、不自由は感じていません。それに二度目の妻とは今だに月一ペースで会つてるんですよ。だから本当は、僕が長野に行きさえすれば済むことなんです。でも、行きません。僕はどうしても東京にいないとダメなんです」

「娘が電話をかけてきて調子乗ってんじゃねえ」



最後に、ギー藤田の名を全国に知らしめた『銭金』関連の話にも触れておこう。出演のキッカケは前述の通り、2年間ほど住んでいた西新宿の廃屋なのだが、依頼を受けた理由とその顛末がいかにも彼らしい。

この番組、毎週4人の貧乏人を登場させ、最もインパクトのある者に賞金20万を贈呈していた。藤田の狙いはもちろん金。当時、「あわせ団地」という漫画を原作とした映画の脚本を書き上げた時期で、撮影資金に少しも足しになればと考えたのだ。

番組に出演し、見事に賞金を手に入れた藤田は、タダ同然で機材や役者の卵を7人かき集め、四国・愛媛へ。わずかな数日ですべてのカットを撮り終え、出来たてのパイロットフィルムと自分が『銭金』に出演した際のビデオテープを漫画の原作者に送りつけた。思いの丈を綴った長い長い手紙を添えて。

僕はギー藤田という映画監督です。あなたの漫画に感銘を受け、このような作品を撮りました。ぜひ、上映させてください。『すぐ』に短い返事が届きました。頼むから止めてくれって」

もはや、気の毒という以外にないが、『銭金』出演によるエピソードは他にもある。歴代の貧乏バトル優勝者100人の中から、彼がキングオブ貧乏に選ばれたとき、最初の奥さんとの間に生まれた娘たちから鬼のような電話がかかってきたという。

「開口一番『ダメエ調子に乗ってんじゃねえよ』ってどやされましてね。娘に怒られたのもシヨクでしたけど、不良のようなことば遣いにガツカリさせられました。その日以来、まったく連絡がありません」

★

取材が終わってバーの外に出ると、藤田が握手を求めてきた。

「今日はどうもありがたう。僕は今日のインタビュをきつかけに浮上し、有名映画監督の仲間入りをしてやろうと考えています。それまで待つてください」

今村昌平、篠田正浩、小栗康平。同じ早稲田出身監督を次々に挙げては、絶対に自分の方が才能があると藤田が、言うまでもなく、彼はいまだ1本も作品を残せていない。今後とも期待薄だろう。

ギー藤田、なんと面白うて哀しき人生なのか。近い将来、また会って話が聞いてみたい。

銭金金太郎のキングオブ貧乏 ギー藤田の壮絶オマヌケ半生